

松戸市・新拠点ゾーン

パブリックスペースからの まちづくりワークショップ 第4回が開催されました！

日時：令和4年12月24日

会場：松戸市民会館

参加者：20名

主催：松戸市公園緑地課・松戸駅周辺整備振興課

運営：株式会社URリンケージ

設計組織プレイスメディア

協力：千葉大学大学院園芸学研究科



https://www.facebook.com/2022WSmatsudo/



【参加者】

「賑わい」に関わる市民
松戸駅周辺事業者・まちづくり団体（8名）
地元大学生（12名）

【ディスカッションサポート】

横張 真 教授（東京大学大学院 工学系研究科）

宮城 俊作 教授（東京大学大学院 工学系研究科）

武田 史郎 教授（千葉大学大学院 園芸学研究院）

霜田 亮祐 准教授（千葉大学大学院 園芸学研究院）

令和4年12月24日に、新拠点ゾーン・パブリックスペースからのまちづくりワークショップの第4回を開催し、新拠点ゾーン周辺の「賑わい」に関わる松戸駅周辺事業者、まちづくり団体の皆様と、地元の大学生、計20名にご参加いただきました。このワークショップは、街の新しい「使い方」を話し合い、新拠点ゾーンの公園の「あり方」や、新しい「使い方」を見出すことを目的に行われました。賑わいづくりの視点から、パブリックスペースを有効活用した人々の交流のための工夫について多くの意見が出ました。持続可能な広場の管理運営方法や、市民が「やりたい」と思ったことを実現するためのサポートなど、仕組みづくりにまで踏み込んで議論されました。

松戸市による事業説明

新拠点ゾーンに関する事業の概要や、現状の特徴と課題について説明を行いました。市民にとっての賑わいや憩いの場となることと同時に、地盤の安定した台地上であることから防災拠点としてのポテンシャルが見込める点等、ポイントとなる事項を述べました。

千葉大学による学生提案のプレゼンテーション



地元の大学生であり、まちづくりやランドスケープデザインの専門科でもある千葉大学大学院園芸学研究科より、新拠点ゾーンに関する研究・提案のプレゼンテーションが行われました。事業計画や2019年ワークショップ（MATUDOING2050）成果の読解研究から、新拠点ゾーンの計画には「新しいライフスタイルに対応し多様な活用の可能性を広げること」「日常利用や防災などオープンスペー

スの機能を高めること」「地域の特性を活かした空間をつくること」が必要であることを再確認しました。提案では、多様なアクティビティを展開できる大きな芝生広場や、街を彩る四季彩の丘、新たな取り組みが生まれる社会実験の場など具体的な空間像が盛り込まれ、松戸中央公園と相模台公園を含む敷地全体を一体的に捉えた大胆なプランが示されました。参加者が新拠点ゾーンの「使い方」のイメージをふくらませるきっかけとなりました。

横張 真 先生によるレクチャー



松戸が選ばれる街になるにはどのようなパブリックスペースが必要か、昨今のライフスタイル・ワークスタイルの変化における緑地の利用状況調査をもとにレクチャーいただきました。在宅勤務者をはじめとした新たな緑地の利用者層が増えたことや、感染症リスクへの懸念から大きな公園・緑道・樹林地の需要が高まっている事がわかりました。新たな需要を踏まえて松戸の街の「使い方」を考える本ワークショップの心得として、常識にとらわれないこと、本当にほしい場を考えること、お互いの意見を否定しないこと、の3点を参加者にインプットしていただきました。

ワーキング① 街の「使い方」を考える



松戸のパブリックスペースをどのように使いたいか、どのような過ごし方をしたいかについて考えました。

【STEP 1 ひとりで考える】

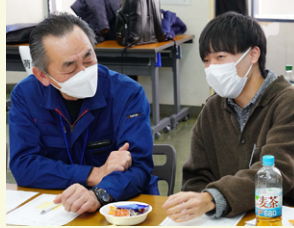
街の「使い方」のアイデアを書き出しました。

【STEP 2 ふたりで考える】

参加者同士でペアを組み、アイデアを発表し合って意見交換を行いました。

【STEP 3 みんなで考える】

最後に全体を2グループに分け、各グループで発表・議論を行い、街の新しい「使い方」のアイデアについてまとめました。



ワーキング② 新拠点ゾーンの「使い方」を考える



参加者全員で1つのテーブルを囲み、ワーキング①で発想した「使い方」のアイデアを具体的に地図上に配置しながら、全体でひとつの成果プランを作成しました。

【成果プランのポイント】

- ・ 駅からの動線を明快につなげる。
- ・ 駅からの軸上には多目的に利用できる広場を設ける。
- ・ アリーナや活用できるピロティ空間を設ける。
- ・ 屋内と屋外の間領域を設ける。
- ・ 大きな芝生広場を中心に据え、活動とにぎわいの拠点とする。
- ・ 道路空間もイベントで活用する。
- ・ イベント等に使用できるインフラ（水栓や電源など）を点在させる。災害対応にも役立つ。
- ・ パークコンシェルジュを駐在させ、広場を活用したい意欲的な人のサポートをできるようにする。
- ・ プレイワーカーを駐在させ、プレイパークのように子どもも安全かつ自由にすごせる場とする。
- ・ 地域通貨ポイント制度を導入し、管理や運営などへの参画の対価とするなど、人が積極的に関わりたくなる仕組みを作る。
- ・ 設備や仕組みを整えることで「やりたい」を「できる」に叶える拠点とする。
- ・ 日常利用を促進することで災害時等非常時の拠点活用もより有効的になる。
- ・ 人、動線、みどりで街とつながる拠点を指す。
- ・ 新旧住民や学生など人のボーダーがない空間とする。



イベント	アウトドア冠婚葬祭
	小さなステージで楽器演奏、歌、芝居、手品、大道芸
	地元の人達が集まるお祭り・イベント
	フードフェスティバル
運動	クリスマスマーケット
	ヨガのスクールと大会
キャンプ	サイクリング・ランニングの拠点施設
飲食	デイキャンプ
コミュニティ	BBQ
	その場で出会った人と好きなモノ・コトの共有
	仲間と一緒にご飯を作る場
	市民の人の意見を簡単に聞ける場
ワーキング	街と学生が交わる公共スペース
	カップルでデートできる場
	電源がありPCを広げて作業できるスペース
眺望	森の中で気分転換しながらテレワークできる場所
	まちなかで学生がレポートを書くなど、ちょっとした作業スペース
音楽	松戸の風景を眺めることができる場
買い物	音楽フェスティバル
	マルシェ、キッチンカーで買う
休息	ミニ屋台で綿菓子、たこやき、焼きそば
	病気持ちの方や高齢の方のためのベンチ
	芝生にシートを引いて昼寝や読書
個人の活動	芝生の上に自分達で用意した椅子で座る
子供の遊び	気軽に個人がイベントを開催できる空間
自然体験	プレイパークのように遊びを教えてくれる人がいる場
コミュニティ・ガーデン	座ることができる切り株を用意する
ペット	コミュニティガーデンを地域の人と学生で共同でやる
ハンモック	ドッグラン
	樹木間にハンモックを設置
施設	シェア店舗
	シンク付きのキッチン・シェアキッチン
	フリーブースのためのインフラの敷設
インフラ・防災	防災時にも活用できるインフラの整備
いきもの	馬の放牧地
しくみ	新しいチャレンジを受け入れる仕組みと場
	自然の利用（水・風など）

街の新しい「使い方」のアイデア（主なものを抜粋）